

Israel Monthly Trends

2025年5月

目次

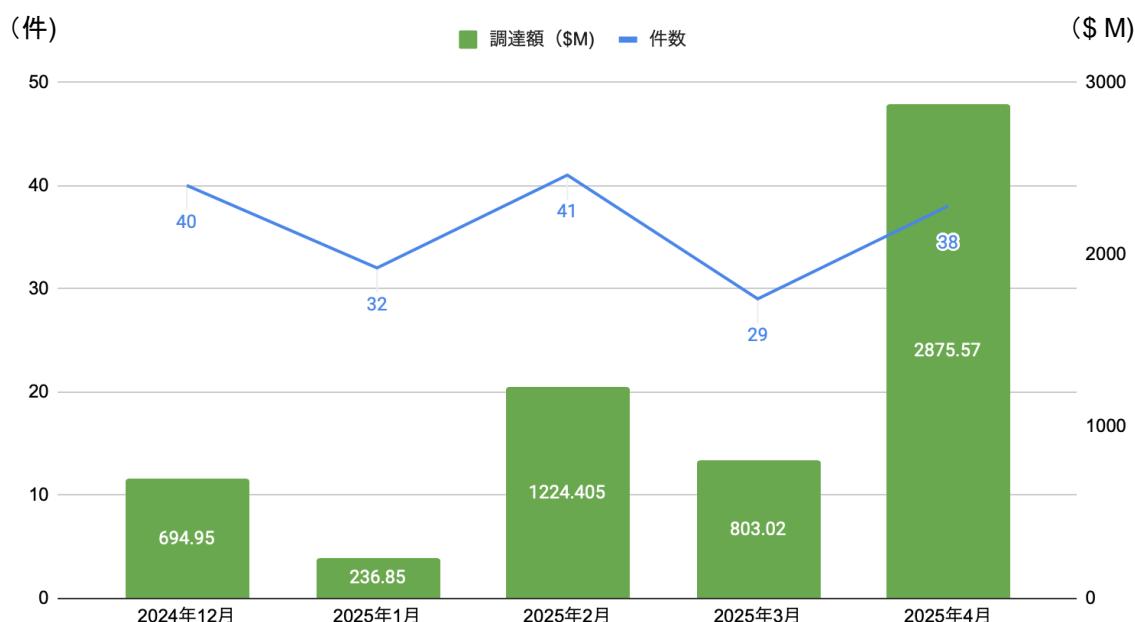
1. イスラエルの現在の状況_4月 p.2
2. 今月の注目テーマ： 合成生物学 p.3
3. 合成生物学に関するスタートアップ p.4

本レポートは、「スタートアップエコシステムが発達しているイスラエルで、どのようなイノベーションが起こっているかを伝える情報提供を目的として作成されています。本レポートが日系企業の戦略策定の一助になれば幸いです。

1. イスラエルの現在の状況_4月

2025年3月16日から2025年4月15日におけるスタートアップへの資金調達動向は、案件数が38件で、調達額の合計は28億7,557万ドルであった。前回（2月16日から3月15日）の資金調達に比べて、案件数と調達総額はともに増加した。

イスラエル・ハイテク企業 月別資金調達推移



出典：IVC Data（2025年4月16日アクセス）、Jakore作成

本レポートの毎月のデータ収集期間は、前月16日から当月15日までとなる。

2025年3月から4月初旬にかけて、複数の企業が異なる資金調達ラウンドで成功を収めた。Safe Superintelligence社は、シリーズBで20億ドルを調達した。半導体分野のRetym社はシリーズDで7,500万ドルを調達した。Island社は、シリーズEで2億5,000万ドルを調達した。NextVision社はセカンダリーディールを成功させ、ハードウェアと産業分野で6,300万ドルを調達した。

2. 今月の注目テーマ：合成生物学

合成生物学は、米国や欧州、東アジアの研究を契機に誕生し、学術界を通じてイスラエルにも広がった。現在では、政府や産業界、ベンチャーキャピタルの関心を集め、スタートアップの設立が活発化している。応用分野は、医療や食品にとどまらず、農業、素材、環境、エネルギー、宇宙など多岐にわたり、地球規模の課題解決が期待されている。とくにDNAの再設計や細胞機能の制御によって、持続可能な新技術の開発が進んでいる。

イスラエルでは、合成生物学を含むバイオエンジニアリングとナノ技術の融合である「バイオコンバージェンス」を国家戦略に位置づけ、医療や安全保障といった産業課題への新たな解決策を提示している。政府は研究支援や産業連携、バイオファウンドリ整備などを通じて、合成生物学を経済成長と安全保障の柱として推進している。

イスラエルの合成生物学産業は、革新性や機動力、リスク許容度の高さが特徴で、医療、農業、代替タンパク質などの分野で成果を上げている。海外アクセラレータへの参加や、国際的な資金調達にも成功している。教育機関では、科学者や起業家を育成する専門プログラムが整備されており、研究から商業化までを一貫して担える人材の育成体制が構築されている。

この分野では異なる学問領域の連携が重要となるため、イスラエルでは学際的な研究体制の整備も進んでいる。大学や研究所、企業、政府機関が共同でプロジェクトを実施することで、研究成果の社会への応用が加速している。あわせて、スタートアップの早期事業化を支援するインキュベーターやアクセラレータのネットワークも充実しており、スタートアップ企業の成長を後押ししている。

今後は以下のような展開が期待される。

- 学術機関からのスタートアップ創出
- 海外からの研究者帰国と起業
- スタートアップのグローバル展開
- 海外投資の拡大

イスラエルは、合成生物学の重要性を早期に認識し、民間主導でエコシステムの構築を進めてきた。学術、産業、政府、教育が連携することで、国際競争力を備えた次世代産業としての発展が見込まれている。これにより、地球規模の課題解決に貢献し、未来社会の形成において中心的な役割を果たすことが期待されている。

出典：<https://PMC10715126/>

3. 合成生物学に関するスタートアップ

● MNDL Bio Ltd.

(<https://www.mndl.bio/>)



MNDL Bio社は、細胞内の遺伝子発現を最適化し、たんぱく質の生産量を大幅に高めるソリューションを提供している。同社は、ゲノムビッグデータを基盤に、最先端のアルゴリズムと人工知能（AI）、機械学習（ML）を活用した独自のコア技術を保有する。とくにこのソリューションは、生物システムの効率を高めることで、生産性の最大化とコスト削減の両立を可能にし、幅広い分野での応用が期待されている。

● BioRaptor Ltd.

(<https://www.bioraptor.ai/>)



BioRaptor社は、バイオテクノロジーおよびバイオ医薬品企業向けのオペレーティングシステムを開発している。科学者やバイオ企業に人工知能の力を提供することを目的とし、同社のプラットフォームを使えば、研究者は科学データや高度な分析結果に基づいて、より効果的な実験の設計、データの収集・解析、研究成果の加速を図ることができる。

● OHR Synbiosis Ltd.

(<https://www.ohr.bio/>)



Ohr Synbiosis社は、原油を使わない持続可能な化学製品の生産に注力するバイオテクノロジー企業である。酵素ベースのプロセスを採用し、従来の精製工程を排除することで、単純な構成要素から精密な炭素鎖を生成する技術を開発している。最初の製品としては、硫黄を含まないオーケット燃料を開発しており、既存の航空宇宙インフラとの互換性も考慮されている。また、細胞や補因子を使用しない独自のアプローチにより、生体触媒の高い選択性や反応性、効率性を活かしつつ、シンプルで低コストな製造を可能にしている。